

5/ 1
(月)

水俣病犠牲者慰霊式 悲劇を繰り返さない

5月1日、エコパーク水俣親水緑地で水俣病犠牲者慰霊式が執り行われました。

慰霊式には、患者や被害者、遺族のほか各団体の代表者らが出席し、町からは、川添町長と林誠治議長が参列。黙とうして鎮魂の祈りをささげ、慰霊碑前の祭壇に花を手向けました。

患者・遺族を代表し松崎政司さんが「一人ひとりが真剣に考え知恵を出し合い、悲劇が二度と起こらないように努めていきます」と述べた後、水俣市の児童生徒を代表し、袋小6年の塚田暁斗さんが「水俣病の正しい知識を身につけ、水俣

献花をする川添町長



の良さを未来に伝えていきたい。水俣病を教訓として環境モデル都市に生まれ変わった水俣を誇りに思っています」と祈りの言葉を述べました。

5/ 11
(木)

「千人街頭立哨」と「アオサ作戦」 町の交通安全

5月11日から20日までの10日間、令和5年春の交通安全運動が行われました。

初日の11日は、阿久根警察署の職員や阿久根地区交通安全協会会員、阿久根地区安全運転管理者協議会会員らが、交通事故防止を図ろうと、千人街頭立哨を実施しました。

今回のスローガンは「横断はしっかりよく見てたしかめて」子供をはじめとする歩行者の安全の確保、横断歩行者事故などの防止と安全運転意識の向上、自転車ヘルメット着用と交通ルール遵守の徹底を同運動の重点としています。

街頭立哨には約60人が参加。歩行者と運転ドライバーへ交通安全を呼び掛けました。

交通安全のぼり旗をかざし立哨



ドライバーへアオサを配り安全運転を呼びかけ



同日、事故の未然防止を図ろうと、赤崎橋パーキングパークで恒例の交通安全キャンペーン「アオサ作戦」を実施しました。

キャンペーンには、同協会役員のほか東町漁協の職員も参加し、乾燥アオサを配りながら、ドライバーに安全運転を呼び掛けました。

浜健男会長は「今年は事故が増加傾向にあるので、キャンペーンを期に事故が無くなるようにみんなで気を付けてほしい」と話しました。